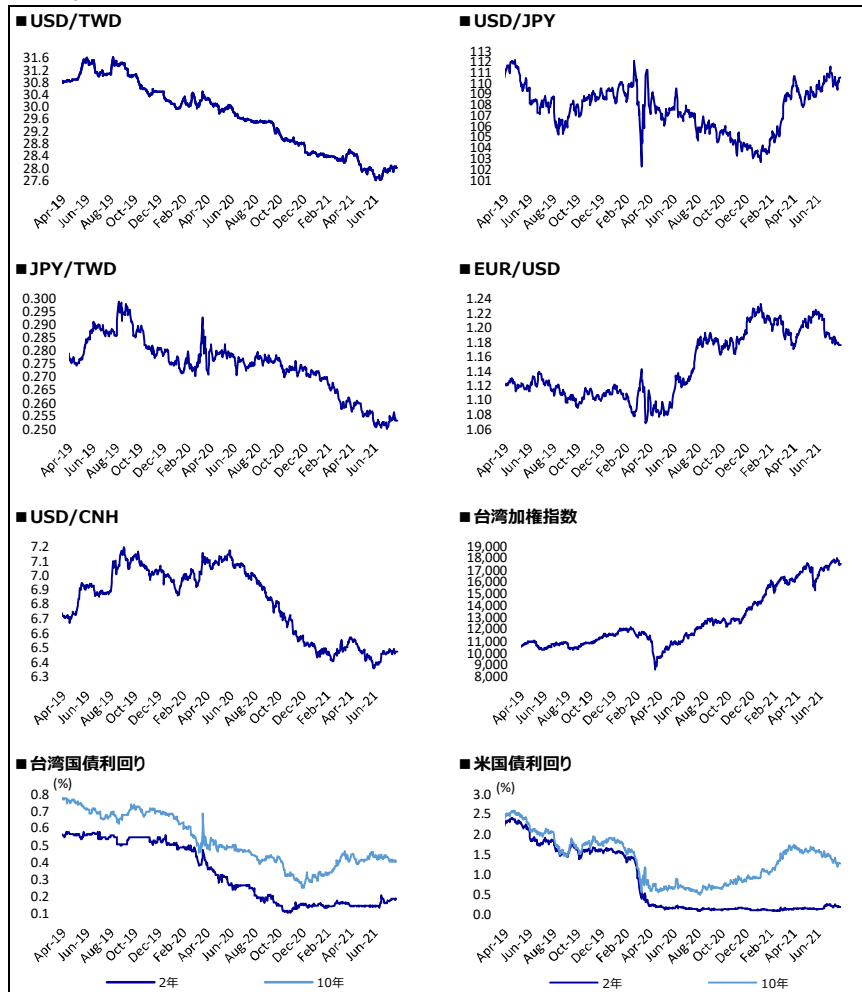


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/19は28.020でオープン後、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感から台湾株も下落し、台湾ドル売りが優勢となるも、輸出企業のドル売りも入り、上値は押さえられた形に。7/20も引き続き軟調な台湾株から台湾ドルが売られ、28.106まで上昇したものの、28.10付近では輸出企業のドル売りも入り28.04付近に戻された。7/21は前日に米株式市場が反発したことを受け、台湾株が上昇すると台湾ドルが買い戻され、28.03付近まで下落したが、アジアでのワクチン接種率が低いことから台湾株も上げ幅を縮小し、前日比マイナスに転落するとドル/台湾ドルも28.07付近に上昇。7/22は台湾株はしっかり買われ、台湾ドル高の流れとなり、一時27.952まで下落したものの勢いは続かず、28台に戻された。7/23はもみ合う展開となり、28.00付近の推移となった。最終的には先週比0.1%ドル高台湾ドル安の28.028で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は454.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初7/19は110.05でオープン後、特段新しい材料がなくレンジで推移したが、新型コロナウイルスの感染者数増加への懸念からリスクオフの流れになると米10年債の利回りが1.18%を割り込み米株も急落するとドル円は109.07まで下落。7/20は前日からの米長期金利の低下が落ち着いたことからドル円は109円台後半まで推移。しかし、米金利が再度下げるとドル円も下落したが、米金利、米株共に上昇に転じると109円台後半に戻した。7/21は米金利の低下が一服し上昇したことをきっかけにドル円も上昇し、110円台前半で推移。7/22は東京が連休に入り、110円台前半での狭いレンジで推移。7/23も引き続き東京休日ではあったものの米金利の動きにつられ、ドル円はじり高に。一時110.59まで上昇したが、その後は材料に欠き110円台前半まで推移した。最終的に先週比0.4%ドル高円安の110.54で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.900-28.100
先週は台湾株も他のアジア諸国と同様に低いワクチン接種率から売られる場面が目立った。ワクチン接種率については急激な改善は見込めないものの、今週は週末週であることから、輸出企業のドル売りから上値は重い展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.20-111.20
今週はFOMCを控えており、週初は動意に乏しい展開となるであろう。FOMCではテーパリングの開始時期に注目が集まるが、テーパリング期待からの米長期金利の上昇によるドル高には警戒したい。

今週の予定

7/26 (MON)	
7/27 (TUE)	米6月耐久財、米7月消費者信頼感
7/28 (WED)	米FOMC
7/29 (THU)	米Q2GDP速報
7/30 (FRI)	台湾Q2GDP、米6月個人消費・支出

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。